

## 令和3年度中野区立学校における学校教育の指導目標

### I 指導目標

子どもたちが生きていくこれからの社会は、超少子高齢化、グローバル化、高度情報化が進む中、人工知能(AI)の飛躍的発展や新型コロナウイルスの蔓延がさらに拍車をかけ、社会構造や生活様式が急速に変化するなど、まさに「予測困難な時代」の中にあると考えられている。そのような社会を生きていく子どもたちには、一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えていく力を身に付ける必要がある。このことは豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育成することにつながる。

そこで中野区立幼稚園及び小・中学校(以下「学校」と表記する。)では、「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」という中野区教育委員会の教育理念のもと、これまで中野区の学校が積み重ねてきた教育成果を継承・発展させながら、新しい時代の学校教育を創造し、以下の目標の実現を図っていく。

- 中野区立学校がこれまで積み重ねてきた、豊かな心、確かな学力、健やかな体からなる「生きる力」をバランスよく育む教育を一層充実させることにより、子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力の基盤をつくる。
- 学習指導要領の理念や、ICT機器を活用した新しい教育方法や教育環境を積極的に取り入れ、ニューノーマルの学習モデルを実現していくことなどを通して、新しい時代を見据えた中野区の学校教育を創造していく。

### II 基本方針

#### 1 時代を越えて受け継がれる教育のさらなる充実と発展

学校の教育活動全体を通して、知・徳・体の力をバランスよく育む。特に生命を尊重し、人権尊重の理念を正しく理解させ、思いやりの心や規範意識、社会の一員としての自覚や態度を育てる。

##### (1) 自他の生命を重視した人権尊重教育の推進

- ① 生命の大切さや尊さ、生きることのすばらしさを理解させ、自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、一人ひとりのよさや多様性を認め、かけがえない自他の生命を尊重する態度を育てる。
- ② 性別、人種等の違いや感染症に関する偏見や差別をなくし、一人ひとりの人権を大切に作る心を育て、主体的に社会に関与する態度を養う。
- ③ 一人ひとりに応じた適切な指導及び必要な支援を行うとともに、障害のある幼児・児童・生徒等への理解を深め、共に学び合い生活する中で、共生社会の基盤となる資質や態度を育てる。

##### (2) 生きる力を育む教育の推進(上記以外)

- ① 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、一人ひとりのよさや可能性を伸ばす教育を一層充実させ、他者と協働して課題を解決しようとする態度を育てる。
- ② 体育・健康に関する指導を一層推進し、体力向上や自ら健康を保持増進する意識・実践力を育てるとともに、心と体の健康づくりに主体的に励む態度を育てる。

#### 2 新しい時代の学校教育の創造

新しい時代を見据えた学習指導要領の理念やGIGAスクール構想の目指していることを実現することにより、子どもたちに様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となるために必要な生きる力を育む。

- ① カリキュラム・マネジメント等の視点を生かし、児童・生徒及び学校の実態に応じた授業の改善に努め、地域・家庭との連携し、社会に開かれた教育課程の実現を図り、教育活動の質の向上に努める。
- ② グローバル人材として必要な国際感覚、やさしさや思いやりの心、公德心、正義感などを養い、主体的に自らの生き方を考える態度を育てるとともに、多文化共生社会の中で生きる豊かな人間関係を築く力を育む。
- ③ 幼児期から小・中学校までの15年間の発達・成長を見据えて、幼稚園・保育施設等、小学校及び中学校が教育内容や指導方法等について相互に理解を深めるとともに、幼児・児童・生徒の交流等の機会を充実させながら学校段階間の円滑な接続を図り、幼児・児童・生徒がその発達の段階に応じて継続的に「生きる力」を身に付けられるようにする。
- ④ ICT機器を活用した学習とこれまでの学習活動を組み合わせ、個別学習と対面学習を効果的に融合させたニューノーマルの学習モデルを展開することにより、一人ひとりの資質・能力が一層確実に育成できる教育を実現する。

### Ⅲ 令和3年度の重点

#### 1 豊かな心を育む教育の充実

発達の段階に応じて人権教育及び道徳教育を一層充実させ、自他の生命を相互に尊重し合い、多様性を認め合いながら共に生きていこうとする豊かな心の育成及び人間関係づくりに努める。

#### 2 安心して生活できる学校の実現

新しい中野区いじめ防止基本方針の趣旨を受け、いじめの未然防止に向けて道徳教育の充実や体験活動の一層の推進を図り、豊かな人間性や社会性を育むとともに、一人ひとりの心に寄り添ったきめ細やかな指導を徹底し、いじめの早期発見・早期対応を継続的・組織的に行う。また、可視性が難しいネットいじめは、早期発見が困難な状況にある。情報モラル教育の充実を図るとともに、家庭に対する相談窓口等に関する情報提供や啓発をより一層強化し、SOSの出し方に関する教育の充実を図る。

#### 3 一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の実現

GIGAスクール構想など教育のICT化の目的は、単にICT機器を使うことではなく、一人ひとりの児童・生徒の状況に応じた学びや主体的・対話的で深い学びを推進することにより、児童・生徒の力を最大限に引き出すことであることを、まずは校内で共通理解する。その上で、一人一台端末を活用し、ICT機器を用いた学習と従来の学習活動を組み合わせ、個別学習と対面学習を効果的に融合させたニューノーマルの学習モデルの実現を目指した授業改善を推進するとともに、その指導・評価について年間計画に位置付けていく。

#### 4 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

家庭や学校での個別学習においては、ICT機器を積極的に活用し、一人ひとりの児童・生徒の学習状況に合わせた基礎的・基本的な内容の確実な習得を図る。また、学校での対面学習においては、協働的な問題解決の場面などを通して、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを推進し、思考力・判断力・表現力等を育むとともに、学びを人生や社会に生かそうとする姿勢や態度を身に付けさせていく。

#### 5 15年間の学びの連続性の確保

新しい「中野区の保幼小中連携教育」の計画に基づき、これまで取り組んできた、公私を越えた保幼小連携や、各中学校区における小中連携を一層充実させ、幼児・児童・生徒の交流や教員の相互理解を促進するとともに、知・徳・体と特別支援教育の4つの視点による、保幼小中の学びの連続性に着目したカリキュラムの連携研究を推進していく。各校においては、各学校段階における発達の段階や学びの連続性を踏まえた系統的な教育課程を編成し、意図的・計画的・具体的な教育活動を展開する。

#### 6 社会に開かれた教育課程の実現

幼児・児童・生徒や学校、地域の実態に応じて、家庭地域をはじめ学校を取り巻く社会との連携を図りながら、これまで培ってきた教育活動を継続・発展させていくとともに、新しい時代に求められる資質・能力の育成に向けて、地域資源の活用や外部機関と連携した学習内容を展開するなど、社会に開かれた特色ある教育活動が展開できるよう創意工夫のある教育課程を編成する。

#### 7 グローバルに活躍する人材の育成

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができるよう、学校段階間の接続を意識した積極的な授業改善に努めるとともに、外部人材の活用や資格取得の促進等により意欲の向上を図り、グローバル化が進展した社会の様々な場面で必要となる外国語によるコミュニケーション能力の向上に努める。

#### 8 健やかな体と健康で安全に生活する力の育成

望ましい生活習慣や運動習慣の確立と体力・運動能力の向上に向けた取組を充実させるとともに、児童・生徒が感染症等について正しく理解し主体的に健康管理に努めるなど、生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るために必要な資質・能力の育成に努める。

#### 9 学校2020レガシーの構築

東京2020大会の開催を踏まえ育んできた、これからのグローバル社会に求められる5つの資質（①ボランティアマインド ②障害者理解 ③スポーツ志向 ④日本人としての自覚と誇り ⑤豊かな国際感覚）の中から、東京2020大会以降も引き続き育む活動を「学校2020レガシー」として1つ以上取り上げ、各校の特色ある教育に位置付け継続・発展させ、大会終了後、さらにその先の社会で活躍するために必要な力を身に付ける教育を推進する。